



Nagoya GRAMPUS

名古屋グランパス ワイズメンズ クラブ

NAGOYA YMCA 35-16 DAIKANTYO HIGASIKU NAGOYA 460-0002 JAPAN

国際会長主題 「世を照らす光となろう」
 アジア会長主題 「歳月はYsをワイズ（賢者）にする」
 西日本区理事主題 「先頭に立ってワイズの光を輝かそうクラブで、地域で、国際社会で」
 中部部長主題 「前へ！声を掛け合い！」
 クラブ会長主題 「出会い、絆を大切に」

がんばれ日本 がんばるワイズ

2012年12月号

—＜今月の聖句＞—

神は、その独り子をお与えになったほどに、世を愛された。

ヨハネによる福音書3章16節

名古屋グランパスホームページ <http://www5.ocn.ne.jp/~ysmen/>

2012年12月例会ご案内

◎第一例会

と き：12月1日（土）
 ところ：ラスース・ANN
 時 間：17:30～
 「クリスマス例会」
 ドライバー：荒川君・佐藤君
 厳肅な時間の中でこの一年を振り返りましよう。来年に希望を持ちましよう。
 各自プレゼント1点（500円相当）をご用意ください。公共交通機関でお越しください。
 ゲスト・コメット・マゴメット大歓迎です。

◎第二例会

と き：12月21日（金）
 ところ：名古屋YMCA
 時 間：19:00～

タワーズライツ

と き：12月23日（日）
 場 所：JRタワーズガーデン
 時 間：別途連絡します
 合唱隊参加者大募集中です。
 当日は裏方が多数必要ですので、お手すきの方は参加願います。ただし当日は例年非常に寒いので、防寒対策は万全にお願いします。

◎ファミリースキー

と き：1月19日（土）～20日（日）
 場 所：爺ヶ岳スキー場
 宿 泊：マルハンロッジ
 12月中に別途参加募集します。

11月例会	例 会 出 席 状 況				B F ポイント		クラブファンド（11月）	
	在 席 者	14 名	第 1 例 会	13 名	当 月 ・ 切 手		ニコ BOX ノート	
	例会出席者	14 名	第 2 例 会	9 名	当 月 ・ 現 金		感 謝 ファンド	
	当月出席率	100 %	そ の 他	14 名	累 計		累 計	

“TO ACKNOWLEDGE THE DUTY THAT ACCOMPANIES EVERY RIGHT”
 ＝強い義務感を持つ。義務はすべての権利を伴う＝

第一例会報告

日時：2012年11月17日（土）

場所：故坂倉洋邸

参加者：阿部、坂口、信田、高田、服部、早川、吉田

ゲスト：服部メネ、早川メネ、南里道子、長瀬千佳
坂倉加代子

京都東稜クラブ：近藤勉、大槻裕樹、三科仁昭

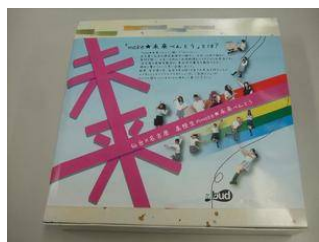


坂倉洋君を偲ぶ会

坂口功祐

我がクラブにて活躍した坂倉洋君が昨年に亡くなって早いもので一年となります。今でも突然現れて活動に激を入れてくれそうですが、本当に寂しい限りです。

今回は阿部会長の発案にて洋君宅で11月の第一例会を行い彼の偲ぶ会となりました。当日は雨の中、京都より東稜クラブの皆さんも駆け付けていただき総勢17名で行いました。



最初に阿部会長より挨拶がありゲスト紹介後は会食となり吉田君の献杯からはお酒も入り洋の好きなワイワイとした雰囲気となりました。お酒は坂野君より大量に差し入れがあり、食事は11月3～4日の東日本震災の仙台訪問を意識して仙台と名古屋の高校生が発案して作った「未来弁当」を頂きました。名古屋めしと陸前高田のワカメやズンダのコラボ弁当でした。

東稜クラブの方々からは、昨年10月23日嵐山散策プログラムに闘病中にもかかわらず洋君が参加してくれ彼の発案でもある東稜クラブとのDBC締結

に最後まで尽力された事をたいへん感謝されておりました。その後はメンバー一人一人から彼の人柄についての思い出話を夜遅くまで語り合いました。これだけ多くの方から慕われていたことに驚き、彼自身も本当に喜んでくれたと思います。

奥様からは本人は最後までチャリティーランに参加するつもりで練習していた事などを聞き、我々の活動を本当に支え考えていた彼の事を思うと我々ももっと大事に活動していかなくはと考えさせられる一日でした。坂倉洋君は永遠に名古屋グランパスワイズメンズクラブのメンバーです。

洋君ありがとう。会長良い機会を作って下さり感謝します。



みどりが丘公園の坂倉家墓前にて（19日）

特集（第二例会報告）

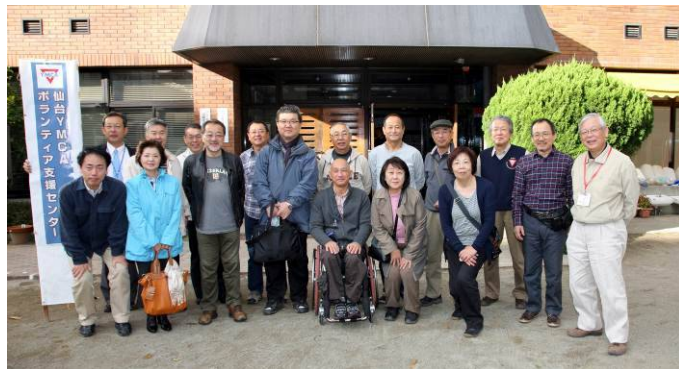
日時：2012年11月3日（土）～4日（日）

場所：東日本大震災被災地（仙台近郊）

参加者：阿部、荒川、坂野、高田、松原、早川、坂本、吉田

ゲスト：荒川メネ、吉田メネ、川本龍資（名古屋）

※第二例会という位置づけで企画した被災地訪問ツアーです。特集として参加者の率直な感想・ご意見を述べていただきました。



仙台YMCAにて

日本大震災被災地訪問

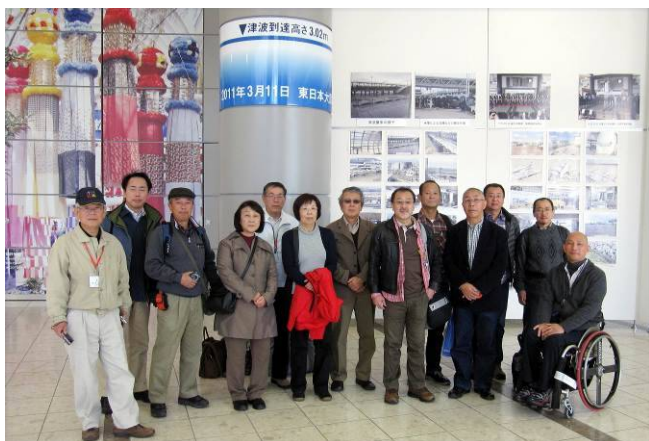
名古屋グランパスワイズメンズクラブ

会長 阿部 一雄

今年度は名古屋グランパス 20 周年となる記念の年。単なる記念例会を行うのではなく、会長標語も「出会い、絆を大切に！」と定め、「出会い」や「絆」を築く幾つかのプログラムを組みました。そのプログラムの中で、一番実施をしたかったのが「東日本大震災被災地訪問」です。

平成 24 年 11 月 3 日(土)～4 日(日)の 2 日間、仙台市を中心とした東日本大震災被災地を訪れてきました。今までは YMCA を通じ、募金などでしか支援をしていませんでした。何回か訪れる機会はありましたが、車イスの私がボランティア活動をしなくても、かえって足手まといになりかねないと思い、今まで訪れることを遠慮してきました。

しかしながら、「被災地を訪れ、宿泊し、物を買ってお金を使う事も被災地支援に繋がる」と仙台 YMCA の大村さんからお聞きし、6 月から現地と連絡を取りながら準備を進めてきました。また、私は東日本大震災の直前に開催された仙台車いすマラソンに参加しており、「あの街、あの人たちが被災された」と思うと、「どうしても訪れなければならない」という想いをずっと持ち続けてきました。報道では伝わらないものがあると、以前から現地を訪れた方々から聞いておりましたので、どんな感じかを考えながらの訪問となりました。



後ろ柱上青ラインまで津波がきました

最初に到着した仙台空港。皆さんもテレビで幾度も流された映像を覚えているように、仙台空港は大きな被災を受けました。3メートルの高さまで津波が押し寄せたそうです。想像以上の津波の高さに、最初から驚かされました。

次に訪れたのが、山元町にあるイチゴ農園。仙台 YMCA が派遣する、ボランティア活動の中心的活動場所の 1 つになっています。震災直後は母屋をはじめ、全てのビニールハウスが流され、廃業を覚悟されたそうです。片付けに訪れていたボランティアメンバーに励まされ、イチゴ農園の再起を果たすまでに至った、苦労話をお聞きしました。このイチゴ農園の

再起に触発を受け、廻りの農家も徐々に再起に向け、動き出していました。

次に訪れたのが JR 坂本駅。ホームとトイレ以外全て津波に流されてしまった地域です。駅前にある案内看板が、唯一ここに町があったことを伝えていました。複線だった山側の線路は、引き波によって根こそぎ無くなっていました。津波の威力に驚かされるばかりです。

同地域の中浜小学校と山下第二小学校を訪れました。山元町や仙台市沿岸では 10 メートルの津波であったため、2 階の屋根裏に避難して助かったとお聞きした中浜小学校では、体育館の天井も壊れていました。山下第二小学校では解体工事が始まっていました。出来て間もない小学校にも関わらず、学び舎が無くなってしまふ悲しさは、そこに通っていた児童、先生にしか分からないことです。また閑上(ゆりあげ)小学校体育館には、泥の中や海から発見された写真やランドセル、衣服などが並べられていました。今までそこにあった生活が、地震と津波で一変してしまったことが窺い知れるものばかりで、悲しくなりました。



J R 坂本駅

この日最後に訪れたのは、「奇跡の桜」で知られる仙台市閑上(ゆりあげ)地区にある日和山でした。地区の全ての家屋が流された中、丘の上にあった桜が春に何事もなかったかのように咲きました。流された家屋の基礎や折れた電柱などを見ると、ここでも何も話すことができませんでした。

その後ホテルで、地元ワイズの方々と会食を行いました。今日見てきた事、震災にあわれた時の事やその後起きている事など、様々なお話を聞かせて頂きました。このブリテンでは書くことを遠慮してしまうことまでお聞きすることができました。復興と言っても、地域も広く、人が関わる復興は難しいものがあると、知らされました。東海地域でもいつ起きるか分からない巨大地震。私たちが考えなければならないことは多々ありそうです。

2 日目は大型漁船が打ち上げられた、気仙沼市被災地を訪れました。地震から 1 年半が経ちますが、建物の基礎をはじめ、何も片付いていないことに驚

きと、無力感を感じました。津波被害の無かった市街地は、表面上通常の生活が戻っているように見え、紙一重であったことが想像できました。

次に訪れたのは南三陸町の「さんさん商店街」。南三陸町の商店の方々が集まり、仮店舗で営業を再開した商店街です。少しでも被災地支援を行いたいと思い、昼食やお土産を買い込みました。



その後、防災庁舎を訪れました。屋上を越える津波に見舞われたことは、言うまでもありません。曲がった鉄骨の柱、跡形も無くなっている外壁。何とも、言葉が出ません。

その後、岩手沿岸のリアス式海岸沿いの町を通り過ぎる度に、津波で押し流された建物の基礎が見受けられます。道路上や土留めコンクリートの壁には、津波で押し流されてきた「がれき」の跡が、1年半以上経った今でも生々しく残されているのがわかります。

門倉地区の門倉小学校体育館は震災の前日に竣工式をされたそうです。校舎と共に1日で全てを失くしてしまったとのこと・・・。

74人の生徒が犠牲になった大川小学校。円形のモダンな校舎と屋外スタジアムを持つ斬新的な校舎。「なぜ？」ここでこんな悲劇が起きてしまったかを伺い知ることは、我々には想像もできませんでした。「我々が伝えなければならないことがある」と、ここで強く認識をしました。



昨年の紅白歌合戦で長渕剛が歌ったことで知られる、石巻市の門脇小学校。校舎の半分が流されてきた「がれき」により火災となっており、黒く焼けた小学校校舎が痛々しく感じました。

松島の野蒜(のびる)小学校でも非難していた方々の多くが亡くなりました。目の前で知人や級友が流されていく光景を見た方々の心のケアに仙台YMCAが関わっていることを知らされ、ご尽力に感謝しました。その後、松島の温泉街、商店街を通りました。犠牲になられた小学校が10数キロしか離れていないにも関わらず、何事もなかったかのような賑わいに、驚きました。でも、表面上はそれでいいことが、良く分かりました。その後仙台空港に送って頂き、帰路に着きました。



見渡す限り家の基礎のみ

私は今回の東日本大震災被災地訪問を通じ、いろいろな思いが心の中を駆け巡りました。簡単ではありますが、感じたことをストレートに表現すると以下のような言葉になりました。もっと論理的に書きたい気持ちもありますが、こうした言葉しか出てこないのが、東日本大震災被災地を見てきた現状です。

- ① まずは犠牲になられた方々のことを忘れないこと。
- ② 二度と同じような悲劇を繰り返さないこと。
- ③ ここで「見て」「聞いて」「感じた」ことを正しく伝えること。
- ④ 前に進み、早く通常の生活を取り戻すこと。
- ⑤ 被災地の物を買ひ、使い、出来れば何度も被災地を訪れること。
- ⑥ 身の廻りを見直し、教訓を活かすこと。
- ⑦ これからが本格的なソフト面を重視した支援であり、ご協力・支援継続を行うこと。

今回、参加したクラブメンバーも多くの影響を受けたようです。それぞれが何を感じたか、来年の例会で「東日本被災地訪問報告例会」を行いたいと思います。名古屋グランパスワイズメンズクラブとして、これからも東日本大震災被災地を微力ながら応援

していくと共に、何らかの行動を起こし、支援の一助となることを目指します！

仙台 YMCA 被災地支援室の方々、仙台地区ワイズメンズクラブの方々、今回の視察支援ありがとうございました。これからが本当の被災地支援であることが良く分かりました。これからも連絡を取り合い、ご協力、支援を続けていきたいと思ひます。どうぞ宜しくお願い致します。



被災地訪問記

坂本清則

仙台近郊の被災した場所を訪れて感じたのは、写真や映像で見ると、実際に見るとでは、やはり心の中に迫ってくる重さの次元がまったく違うということでした。津波で流された住宅地跡は、1 年半経って雑草が生い茂っていましたが、初めからの空き地ではなく、ついこの間までここに建物があり、人々の生活があったのだということを思いながら見たとき、言い様の無い虚しさを感じました。



誰の引取り手の無い物資類

震災直後とは比べられないにしても、今回の訪問で、爪痕がまだ生々しく残っているうちに現地を見ることができて良かったと思ひます。名古屋で支援活動を行なうにしても、実感が伴いますから・・・そして、「被災地の復興はまだまだこれからだ」ということも、現地を見たことで、「本当にそうだ」と感じることができました。これからも支援を継続しな

ければ！との思ひを新たにすることができました。この訪問を企画していただいた阿部会長に感謝いたします。

被災地訪問について

早川 政人

東日本大震災が時間とともに 記憶から薄れていきました。今回の 企画で改めて被災された方々がどれだけ 悲しみに耐え又立ち上がる事が出来たのか 強さを感じました。又、被災者を援助された方々の尽力に 敬意をはらいます。

我々が見聞きした現実をより多くの人たちに伝える事がこれからも大切な事と思ひます。私たちには大した事も出来ませんが、何か役に立つ事を考えて実行をしたいと思ひています。



東北被災地応援ツアーに参加して

高田 士嗣

被災地訪問では価値観をも変えられる思ひ出です。「復興支援」って何ですか？この疑問がツアーの途中から今もずっと心の中に残っています。一軒家の火災、爆発等と違い、村、町、地域一帯全部が全て消えて無くなっているのです。

震災から一年半以上を過ぎてもなお被災地には瓦礫の山が残り、あったはずの家々はなくなり、人の生活の営みは消えていました。



これどうするの。このまま残すの

残った建物の一階は柱のみの悲惨な状態、その周りは瓦礫の残骸、山積みの車(ナンバー付)映画のロケーション地？と勘違いする悲惨な情景。亡くなった方も助かった方もつらく悲しい現実がありました。運が良い悪いの次元ではありません。家族友人知人が目の前から居なくなり消えてしまったのです。

「復興って元に戻すこと」ですか？ 完成図や図面があれば物理的には戻るかもしれませんが人間性、人間愛等の精神(人間の心)はどうケアすればよいのでしょうか。家族や親友・友人を失い、愛や友情を無くし具体的な希望目標が立てられない状況を考慮すると頑張るとはとても云えませんでした。今、精一杯生きていることが頑張っている事ですから、負けないで、くじけないで前に1歩1歩進みつづけて下さいと祈るだけでした。

自分たちの感じたこと、見聞した生の情報を大声で周りに伝え、逆に我々こそが頑張るべきではないでしょうか。もっともっと頑張って頑張って色々な形で支援をしたいと思います。まず岩佐のいちご農園のイチゴを2～3月頃に皆でオーダーしましょう。

最後に、お世話になりました仙台ワイズ、YMCAのステップⅡの皆様ありがとう御座いました。

PS. あれから急に涙腺がゆるくなり、涙もろくなりました(歳かな???)



震災復興支援ツアーに参加して

吉田一誠

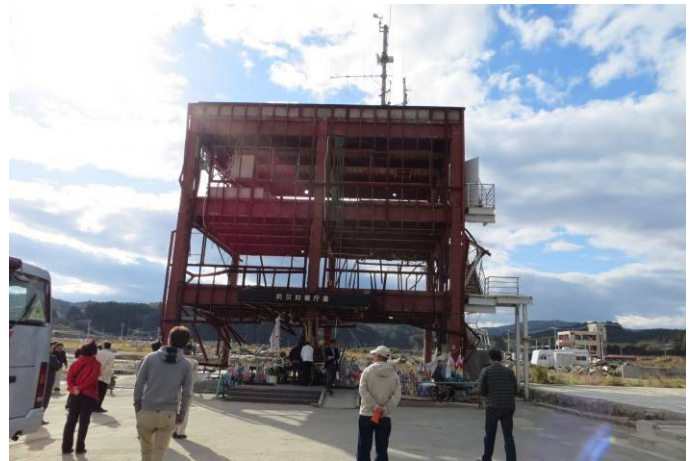
言葉がないあるいは、言葉ではとてもうまく表現できない、というのが今回の復興支援ツアーの率直な感想です。

同時に語り継がなければならないことがあまりにも多くあり、時の経過とともに風化していく記憶をどうとどめていくかということの難しさを感じ、自分には何ができるのか？何をしなければならないのか？を問いかけられた重い旅でもありました。

いまどきこのような自問をしなければならない自分が嫌になりますが、震災が起きた時私は中国桂林で川下りの観光船に乗っておりました。丁度小雨模様の昼時でまさにあの墨絵のような景色が眼前に広がる様に感動、思わず写メールを家族や友人に送りましたところ、日本はそれどころではないという返

事が来て地震のあったことを知りました。ホテルに帰りTVをつけるとほかの番組を中止し地震の特別番組を連続して流していました。中国語はわかりませんが、アナウンサーも語るべき言葉を失っている様子でした。香港で一日足止めを食らったものの、日本には三月十三日に帰国することができました。

帰国してからTVや新聞の報道はもちろん見ていましたが、神戸の時のように何か行動をという衝動が、申し訳ないことながら正直なところ起きませんでした。これは年を取ったせいなのか、ここ十年以上異国で暮らしていたせいなのか、距離感の違いなのか、それ以来、関連するNewsを見るにつれ何もしない自分に忸怩たる思いを抱きながら過ごしてきました。そんな中でまずは現地を見てという、この復興支援ツアーの誘いを受け、興味本位な物見というそしりを免れない、気持ちも定まらない中で少し恐れを抱きながら参加しました。



仙台空港に集合、大村主事や旧知の清水ワイズほかの出迎えを受けマイクロバスで出発、YMCAが実際支援活動をしている現場や、今まで何らかのかかりを持ってきたところを含めて、TVなどで何度も報道された気仙沼から南三陸、石巻、仙台、福島の実地の現場を訪ねたのですが、大村主事と清水さんの震災直後から、そこで何が起き、今どうなっているかという説明を受け、改めてTVなどで断片的に見聞きしていたことの裏にある現実の深刻さがわかり、まず見てもらうことが大切ということの意味がよくわかりました。



夜には懇談会も開いていただきましたが、仙台YMCAのスタッフの方はもちろんのこと、仙台の3つのワイズの会長をはじめとする皆さんが、お休みの日にもかかわらず多数参加してくださいました。丁度時期を同じくして開かれていたYMCAの主事研修の皆さんも合流され、思わぬ交流をすることができました。このような貴重な体験をさせていただき、お世話になった仙台の方々にはお礼の言葉もありますが、それとともに。仙台の方々の私たちに対する期待も強く感じました。

この気持ちにこたえるためにも、何か次につながる行動を起こすことが必要です。

復興支援といっても、仮に形が元通りになっても仕事があれば元のところでは生活ができないなど、現地の状況は様々なようで、まさにケース・バイ・ケース的な支援が必要とされているようです。



そんな中で今私たち離れたところでもできる支援の一つは災害を受けられた地域で生産されている産物を購入する、あるいは販売のお手伝いをするのではないかと思います。現地で生計を立てる手段、すなわち仕事があり雇用が確保されてこそ、そこで人が暮しを立てることができ復興に繋がります。

個人的に購入するのはもちろんですが、今必要なのは、多くの量のかつ継続的に購入、あるいは販売することでしょう。それにはある程度の規模広げることが欠かせません。これまでのクラブファンドづくりなどとは違ったレベルで考え新しい仕組みを作ることが必要です。



ここで多くの犠牲者が・・・

まず行動を！阿部会長の方針に基づいて今季はいろいろな経験、体験、出会いがありました。これを

無駄にしないためにも、みんなで知恵を出し合い、名古屋YMCAや名古屋地区のワイズの組織を活かすことのできる取り組みを考え、早急に具体化しましょう。

最後に私事ですが、このツアーに参加して、正直なところあまり身近に感じていなかった震災の状況に間近に接し、清水さんや大村さんの真摯な説明をうかがい大変感銘を受けました。ここ十年以上、仕事にかこつけて、あまり主体的な関わりをYMCAにもワイズにもしてきませんでした。少し目が覚めました。本当にありがとうございました。

私は名古屋からフェリーに車を乗せて仙台に行き、ツアーバスに合流しましたので、帰りに微力ながら、海産物（鮭、イクラ、マグロトロ、ホタテ・・・）、農産物（リンゴ、ナシ、米・・・）の買い出しをすることができました。どれも食べて美味しく、値打でした。また東北の旅をしたいと思います。



仙台視察を終えて・・・

松原 誠

仙台被災地視察旅行を終えて感じたことを述べたいと思います。

まず第一に亡くなられた多くの方々のご冥福をお祈りするとともに今尚、精神的に深い傷を負われた方々のことを思うといたたまれない気持ちにさせられます。時間はかかるかと思いますが、どうか良い方向に向かわれることを切望する次第です。

第二にあの津波の威力は私の想像をはるかに凌ぐものでした。かなり内陸部の被災した小学校や、国道に打ち上げられた大きな船、一面基礎しか残っていない市街地や住宅街・・・しばし呆然と立ち尽くしたのは私だけではなかった。

第三にそんな中で復興に向けて動き出している姿が印象的でした。仙台YMCAの方々もご尽力されているイチゴ農家のご家族の奮闘ぶり、陸前高田市の被災地跡地でのマーケットの皆さんの奮闘ぶりなどが特に印象深く私の心に刻まれました。

私たちにできることは会長が言うように被災地に少しだけお金を落とすことしかできません。そんなちょっとした応援を続ける気持ちにさせられる意

義深い視察でした。最後に大村さんはじめ仙台YMCA関係者の方々に感謝したいと思います。ありがとうございました。



我々を何百kmと運んで被災地案内してくれた仙台YMCAバス



仙台空港内のいち風景

仙台訪問記

坂野清治

仙台訪問は前々日から風邪を引いてしまい、38度以上の熱の中での参加となってしまいました。

まず最初に訪れた摂理地区の農業(いちご農園)がほとんど復興されておらず見渡す限りの荒野みたいな風景に驚きました。

現実的には、津波で農地が塩水で侵され、防風林もすべて無くなり、土地改良にお金と時間がかかりすぐに農業を再開できていないとの事でした。

あとからお話をお聞きしたところ、当初の復興資金が150億円以上だったものが、100億に減額されたようで、それに伴い申請条件が付けられ、跡取りの有る農家に限定され、数年後から返済をすることが条件となり、全体の40%しか補助金申請がされていないのが現状の様でした。

補助金申請をあきらめた農家は仮設住宅に住み、がれき処理のアルバイトくらいしか仕事が無く、将来の希望と生きがいを失っている方が多いそうです。

そんな中、仙台YMCAの取り組みで一つのいちご農園の農家をサポートして、再生させ出荷させるまでに出来たことは本当に素晴らしい事だと思いま

す。

まわりの農家にも頑張れば再生出来るという勇気を与えた事だったかと思います。

その他、気仙沼、南三陸町、石巻と被災地をめくり復興の遅れを肌で感じる事が出来ました、特に大川小学校で亡くなった子供たちの事を考えると心が痛む思いでした。

これを機会に東北の現状をたくさんの人にお伝えして、少しでもYMCAを通して復興のお手伝いが出来ればと強く思いました。

歴史の1ページに必ず残すこと

荒川恭次

あの日(2011.3.11)あの時間の名古屋での揺れと、テレビ画面を通じてのリアルタイムな画像は忘れられません。そして現地に来て実際に何があったのか初めて分かりました。何も無いそこを流れる空気からはそれまであった人の営みを感じることができました。ずっと続く家の基礎コンクリート、瓦礫の山々。これまでに携わった復旧・復興とは明らかに次元の違う世界が目の前に広がっていました。

しかし瓦礫山の横には大きな焼却プラントが建設され着実に前に進んでいるようには見えますが、この2日間、なん百km走っても延々と続く被災地に、被災者の方々が心が折れずにやってこられたのはまさに「絆」ではなかったろうかと感じられずにはいませんでした。

また、仙台市繁華街の喧騒との落差が印象的でした。仙台市内は今まさに地下鉄建設の真っ最中。そこから徐々に復興が広がっていくイメージが頭をよぎりました。被災地関連書籍が多く出版されていることも驚きでした。東海地方では見られないものばかりです。さんさん商店街の写真屋さんでは、ご主人自ら撮られた、報道写真にはない「被災者目線」の貴重な写真集が置かれていました。私にはあまりにも生々しい写真集に手が出ませんでした。後世に語り継ぐため残すべき物かと思いました。「東日本大震災全記録」は購入しました。

今回のように現地に行って現地の方にガイド(解説し案内)されなければわからない事象がたくさんあります。仙台Y大野さん曰く「被災地支援ボランティアも大切だが、割り切った視点で、現地でお金を落とせる「被災地支援を理解する視察ツアー」を企画し、生の現地をみていただくのも、継続的な被災地支援に繋がる」とのご意見に、体力が衰えボランティアに出向く勇気の持てない私には非常に共感できるものがありました。

記憶の薄れかけた他地域のため、今回のグランパスクラブの現地視察がテストケースとなり、今後の新たな形のワイズメンズの被災地支援活動に繋がれば幸いです。今回我々の行動にご協力いただいた現地の方々に感謝いたします。



家の基礎のみ延々と続く空しい風景



瓦礫わきに建設された焼却プラント（知られていない）



仙台市内繁華街は大賑わい



何があったのか伝える資料です。（さんさん商店街の写真屋さんで購入したもの）



宮城県南三陸町志津川地区



これも後世に伝える資料（購入したもの）



書籍：東日本大震災全記録より

チャリティーラン開催

日 時：2012年11月10日（土）

場 所：名古屋城公園

参加者：下村、高田、松原、早川、坂本、吉田
松原メネ

早く若手メンバーを・・・

高田 土嗣

11月10日例年より1週遅れで、秋晴れのもと恒例のチャリティーランが開催されました。参加チーム数58チーム、個人レース32名、ランナー総数380名集まった支援金366万円と盛大な大会になりました。グランパスメンバーは「定番のきしめんサービス」で慌ただしい一日でした



毎年200食完売までは生産工場の作業ライン状態、しかし班長と船頭が多く効率の悪いラインと云うより惰性流れ作業です。トヨタ生産方式の責任者が見れば笑い出すでしょう。テントの中は手より口のほうが忙しい松原夫妻（家庭のストレスを持ち込むな）と無口な高田、早川、服部、信田、下村、佐藤メネットが交代で頑張る何とか200食を提供する事が出来ました。肝心の料理総責任者坂口君が朝から風邪と下痢で早退しましたが、スキルアップしたメンバーのお蔭で何とかなるものです。毎年平均年齢は確実にアップします。早く若手メンバーを募集しないとこの重労働は大変です。



でも一生懸命働くと神様のお慈悲が頂け、ラッフルで中日ドラゴンズグッズとゴルフバッグ（中身無し）が当た

りました。中途半端な幸運？残念ながら今年も折りたたみ自転車はだめでした。



無事完走できたチャリティーラン

下村 明子

普段週に2～3日はスポーツクラブでエクササイズをする私ですが、走ることに限っては1年間でこのチャリティーランの1回のみで、毎年完走を目的に参加しています。

今年も第1走者で走りましたが、スタート前に集合したランナーの顔ぶれを見てびっくり。若い！明らかに平成生まれが増えている！これは本気で張り合ってもけがをするか、翌日動けなくなるかのどちらか、マイペースで走ろうと決め、タイムは年々順調に長～くなっています。このような私を受け入れてくれるチーム（名古屋クラブ深谷ワイズ）のみなさんには本当に感謝です。

おかげで今年も完走できましたが、もし普段から運動をしていなければきっと途中でバテてしまっていることでしょう。私は今年介護保険の被保険者になりました。そして名古屋市から特定検診の受診券も届きました。健康維持のために、来年も走ります！

第二回西日本区役員会開催



日 時：2012年11月17日（土）～18日（日）

場 所：ホテルクライトン新大阪

参加者：荒川（理事事務局員）、下村（事業主任）

YMCAたより

坂本清則

12月に入り、あちこちで年の瀬から新年へのカウントダウンが始まりました。私たちの心も、その区切りの一点に向けて突き進んでいきます。でも、ちょっと待ってください。素通りしてはならない大切な行事、クリスマスがあります。キリスト教徒であるなしに関わらず、“すべての人に与えられた大いなる喜び”を味わいましょう。そしてそれを伝えましょう。クリスマス・キャロルもそのための行事です。ぜひご参加ください。



3. 例会等出席状況

No.	氏 名	11 ／ 17 第 一 例 会	11 ／ 3-4 第 二 例 会	11 ／ 8 根 の 上 祭 り	11 ／ 17 区 役 員 会	10 ／ ／	／
1	阿部 一雄	○	○				
2	荒川 恭次		○		○		
3	坂口 功祐	○		○			
4	佐藤 壽晃						
5	信田伊知郎	○					
6	下村 明子			○	○		
7	高田 士嗣	○	○	○			
8	坂本 清則	○	○				
9	服部 庄三	○			○		
10	早川 政人	○	○				
11	坂野 清治	○	○				
12	松原 誠	○	○	○			
13	三井 秀和						
14	吉田 一誠	○	○	○			
15							
16							
	計	10	8	5	2		

そ の 他

1. 今月の誕生日

happy birthday

グランパスクラブ該当者なしですが、世界中の12月誕生者に

congratulation!



2. 西日本区強調月間

12月度強調月間 EMC-M

EMCのMは Membership. 会議や奉仕など、どんな活動にも会員間の交流と親睦を図る工夫をして、ワイズライフを楽しみながら関係を強めましょう

米村健一 EMC事業主任（熊本むさしクラブ）